

気づき、考え、実行する さし人つうしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりNO.16
令和3年10月27日
文責：校長 松野克己

4年生そろばん教室



10月18日(月)、20日(火)の2日間、4年生がそろばん教室を行いました。講師は福島克己さんと奥様の祥子さんのお二人です。福島さんご夫妻は八幡町の「唐津珠算学院佐志教場」でご指導をされており、約10年ほど前から、毎年佐志小学校にボランティアでそろばん教室をしていただいています。ありがたいことです。

ずいぶん昔になってしまいましたが、私が子どもの頃は近くの駄菓子屋さんや魚屋さんなどは、そろばんで勘定していました。それがレジに代わり、さらにセルフレジが広がり、全くといっていいほどそろばんを見かけなくなりました。当時はそろばん塾に行っている友達もクラスで数名はいて、高学年になると暗算のスピードは全然かない

ませんでした。

道具として今後普及することはないのかもしれませんが、10進法の理解や計算力向上の手段として、そろばんは極めて有効です。教えていただいた4年生の児童も繰り上がりや繰り下がりをもいつも以上に意識しながら、一生懸命に指を動かしていました。



3年生人権教室



本校は毎年、全ての学年で人権擁護委員さんによる人権教室を行っており、10月19日(火)は今年度最後、3年生が人権教室を行いました。「ずっと友達でいたいから」という紙芝居を使って、相手の気持ちをよく考えることを学びました。お話の内容は、できたばかりの家を仲間のクラスたちから壊されるなど、いじわるをされていたカラスのカーテンと仲良しすずめのチッチが、自分たちの悲しい思いを伝えることで、仲良くなっていくというものです。

3年生は集中してお話に耳を傾け、いじめられた側といじめた側の両方の立場でその時の気持ちを考えていました。こういう学習が日々の生活に根付いていったらいいですね。

佐志八幡宮・獅子舞来校

今年度も佐志八幡宮から獅子舞がやってきました。10月18日(月)の20分休みに放送で呼びかけ、多くの児童が獅子に頭をかんでもらいました。調べて見ると、頭をかむこと

によって邪気を食べてくれるということで、子どもの場合は厄除けの効果が強くなるとも言われており、学力向上や無病息災、健やかな成長に御利益があるということです。中には喜んで2回も3回もかんでもらう子もいれば、怖がって近づくこともできない低学年もいました。まあ、見るだけでも、地域の行事に接することになるでしょう。ちなみに、最近、人の名前を覚えられなくなったり出てこなくなったりすることの多い私は「物忘れが少しでもなくなりますように・・・」という思いで頭をかんでもらいました。御利益に期待したいところです。



4週間の教育実習終了

9月27日から4週間、福岡市の中村学園大学、3年生の浦元日向子さんが、教育実習生として本校で研修していました。10月22日(金)で、その教育実習を無事に終えることができました。主として5年1組の砂原先生の指導の元、いろいろな先生の授業を見たり、児童とふれ合ったり、直接、学習指導をしたりしてきました。数回、授業も行いましたが、45分間の流れをしっかりと頭に入れて、児童の意欲を引き出しながらの立派な授業でした。挨拶や言葉遣いといった社会人として必要とされるマナーもよく身につけていて感心しました。佐賀県は、今、公立小中学校の教員志望者が激減しています。再来年の令和5年度には、ぜひ佐賀県の小学校教員の一人として教壇に立ってくださることを期待しています。4週間お疲れ様でした。



赤い羽根
共同募金

みなさんのご協力で6955円の募金が集まりました。
ありがとうございました。

この募金は高齢者や障がい者、あるいは災害で被災された方々の支援や公共施設の整備などに使われます。



「あゆみ」の評価について

10月29日(金)に今年度前期の「あゆみ」をお渡しします。その評価で若干の変更点もありますので、あらかじめお知らせをいたします。



① 評価の基準は、学年が上がると高くなります

どの程度できれば「◎」や「○」とするかを「評価基準」と言います。当然ながら、これは学年が上がれば高くなります。学習面では自ずと学ぶ内容が高度になってきますから分かりやすいのですが、生活面は分かりにくいところがあります。あいさつを例にすると、低学年では元気よくできればいいでしょう。しかし、中学年や高学年になると「相手を見て」「自分から進んで」「立ち止まって」といった要素が加わってきます。ですから「学年が上がると△が増えた。」ということがあっても当然です。発達段階に応じた言動を目指させたいところです。この基準については、学級で大差がないように各学年の担任同士で比較検討もしています。

② 生活面の評価は「○」と「△」の2つです

今年度から生活面の評価を「○」か「△」のどちらかにしました。学習面は点数という一つの目安があるのですが、生活面にはどうしても基準の曖昧さが出てきます。これを少しでも解消するために「忘れ物チェック」といった取組もしていますが絶対的なものではありません。そこであえて評価を2つに絞り、「○」は良好だが「△」はこれからの自立に向けて改善が必要なことと明確にしました。結果として、これまでに比べると△が増えることにはなりますが、できなくなったという意味ではなく、基準が高くなったと受け止めてください。生活面の改善は学校と家庭による協働での指導が重要です。例えば忘れ物を減らすには学校と家庭両方での指導が不可欠です。今後のお子さんの社会生活への適応や自立に向けて、ともに頑張っていきたいと思っています。

以前のあゆみ「通知表」は「成長の記録」という捉え方でしたが、今日では「学校と家庭での足並み揃えた指導の資料」という意味合いが強くなっています。お子さんの頑張りをしっかり認めるとともに将来に向けた成長につなげたいという願いを込めた「あゆみ」です。